

第1章 苫小牧市の概要

第1節 地勢・気象

1 位置及び面積

本市は、道央圏南部に位置し太平洋を望み、道内外の人流・物流を結ぶアクセス拠点であります。また、北日本最大の国際拠点港湾である苫小牧港と、北海道の空の玄関口である新千歳空港のダブルポートを擁し、陸路では、道央自動車道、日高自動車道、国道36号などの幹線道路や鉄路（JR室蘭本線・千歳線など）の交通結節点として各地に繋がっています。



北海道陸路交通の拠点都市

- 鉄 道 JR室蘭本線、千歳線、日高線への分岐点
- 国 道 36号（札幌―室蘭）
234号（岩見沢、旭川へ）
235号（日高方面へ）
276号（ニセコ方面へ）
- 自動車道 道央自動車道へ東・中央・西の3か所のインターチェンジで直結。
高規格道路（日高自動車道）の起点

位 置	東 経	141° 36' 34"
	北 緯	42° 37' 53"
広 ば う	東 西	39.9 km
	南 北	23.6 km
	周 囲	124.5 km
標 高 (海 抜)		6.651 m
面 積		561.58 km ²

資料：苫小牧市統計書

2 気象

本市は、7～8月の平均気温が20℃前後と涼しい気候で、年間を通じて日照時間も安定しています。また、降雪量は札幌市の4分の1程度で、道内でも降雪の少ない地域です。

■月別概況（令和4（2022）年）

	平均気温 (°C)	最高平均 気温 (°C)	最低平均 気温 (°C)	平均湿度 (%)	平均海面 気圧 (hPa)	降水総量 (mm)	平均風速 (m/s)	日照時間 (h)	降雪量 (cm)
1月	-4.0	0.1	-9.1	74	1012.0	76.5	3.0	137.7	105
2月	-3.0	1.4	-8.2	72	1013.2	14.5	3.0	152.2	40
3月	1.3	5.2	-2.8	69	1013.5	74.5	3.1	154.7	50
4月	6.8	11.7	1.9	69	1015.7	8.5	3.1	246.2	—
5月	11.2	15.3	7.9	81	1011.5	131.5	3.2	211.8	—
6月	14.6	18.1	12.3	85	1010.2	190.0	3.3	133.8	—
7月	20.8	24.2	18.5	87	1009.4	135.5	2.7	100.3	—
8月	21.2	24.2	18.3	87	1007.7	454.5	3.3	114.5	—
9月	18.8	22.7	14.5	80	1015.1	154.0	3.4	178.0	—
10月	12.0	16.7	6.8	75	1019.2	93.5	3.5	171.3	—
11月	6.8	16.7	1.6	71	1017.2	52.0	3.4	137.9	—
12月	-1.5	2.4	-5.9	68	1012.1	53.0	3.1	152.0	37

※ 降雪量における「—」は「降雪なし」または「1cm未満の降雪」を示す。

資料：室蘭地方気象台

※ 日照時間における「) 」は、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱う（準正常値）。

■気象極値

区 分	極 値
最高気温	35.5℃ (平成19(2007)年8月15日)
最低気温	-21.3℃ (昭和20(1945)年1月18日)
月最大降水量	697.0mm (昭和56(1981)年8月)
月最小降水量	1.0mm (令和2(2020)年12月)
日最大降水量	447.9mm (昭和25(1950)年8月01日)
日最大降雪量	47cm (昭和43(1968)年2月20日)
最深積雪	77cm (昭和53(1978)年3月11日)
最大風速	31.8m/s 風向・南 (昭和29(1954)年9月26日)
最大瞬間風速	38.6m/s 風向・南東 (昭和56(1981)年8月23日)
最低海面気圧	965.0hPa (昭和45(1970)年1月31日)

※ 極値は、気象官署観測開始からの値を使用する。

資料：室蘭地方気象台

※ 最深積雪は、平成16(2004)年10月1日に特別地域気象観測所となったため統計切断となり参考値。

第2節 歴史・沿革

北海道には古くからアイヌ民族が暮らしており、苫小牧地方においても15世紀の半ば頃、道南に館を構えた小領主によって、アイヌ民族と和人の交易が行われていました。

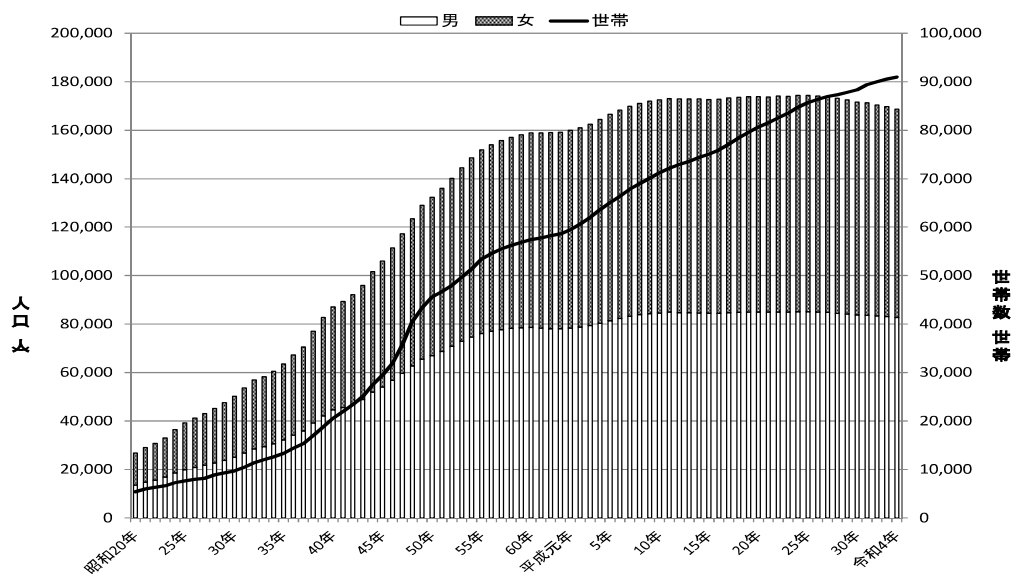
寛政12（1800）年になると、現在の東京都八王子市から八王子千人同心が勇武津（勇払）に移住し苫小牧の礎となり、明治6（1873）年に開拓使が、勇払郡出張所を苫細（苫小牧）に移転し本格的な開拓が始まります。明治43（1910）年に製紙工場の操業開始を契機に工業都市として歩みはじめ、昭和26（1951）年に国家レベルの事業として日本初の内陸掘込港建設に着手、現在の苫小牧港（西港）が築かれました。

高度経済成長期に入ると東部大規模工業基地の開発に伴って、昭和51（1976）年に東港区の建設に着手、昭和55（1980）年に第一船を迎え入れ、平成13（2001）年以降、内貿取扱貨物量全国1位、令和3（2021）年には港湾取扱貨物量全国4位まで成長し、現在では製紙業をはじめ石油精製・自動車部品製造業などの多種多様な企業が立地し、北日本最大の国際貿易港を有した産業集積都市として、発展し続けています。

第3節 人口

苫小牧市政が始まった昭和23（1948）年の3万3千人から、経済成長期に16万人まで増加し、平成25（2013）年の17万4千人をピークに人口減少傾向にあります。令和4（2022）年12月末現在の人口は168,299人（世帯数90,867世帯）となり、前年末から1,229人の減（342世帯の増）、対前年増減率は▲0.57%（0.38%）で、9年連続で減少しています。

■人口及び世帯数の推移



資料：苫小牧市統計書

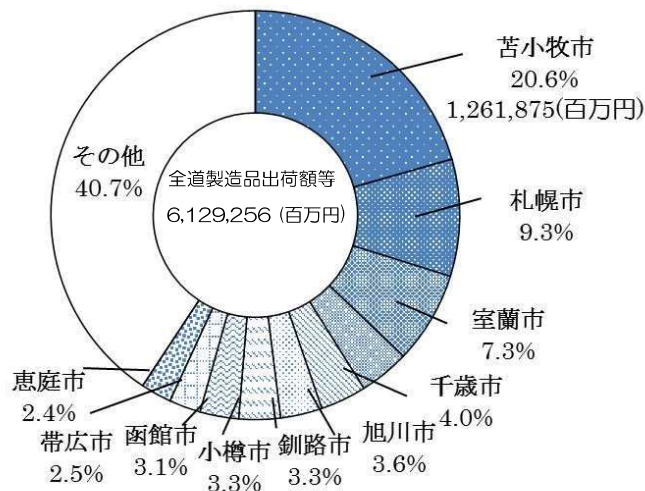
(注) 平成24（2013）年7月以降の人口は、断りのない限り住民基本台帳法の改正により、外国人住民を含む。

第4節 産 業

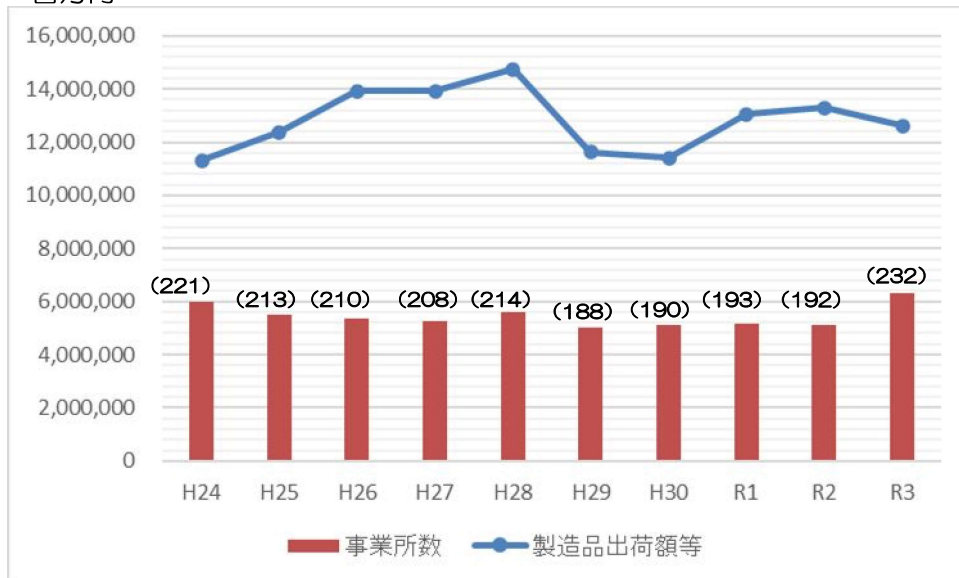
本市は道内最大の工業都市であり、製造品出荷額などでは、人口で10倍以上を有する札幌市を上回り、北海道全体の20.6%を占めています。その中でも、石油製品・石炭製品製造業、輸送用機械器具製造業、自動車部品製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業が特に盛んです。

また、本市における製造品出荷額等とその事業所数の推移を見ると、事業所の大型化傾向も見られます。

■ 製造品出荷額等道内都市別割合（令和4（2022）年）



■ 苫小牧市における製造品出荷額等及び事業所数の推移 百万円



資料：北海道工業統計確報、経産省製造事業所調査

※「製造品出荷額等」とは、製造品出荷額、加工賃収入額、その他収入額及び製造工程から出たくず及び廃物の出荷額の合計である。